

食べるとは、

わたしはママの言葉を忘れない。

「いい、はな。おみそ汁は作れるようになってきいね。それさえできりゃ、何とか生きていけるけん」

将来、一人暮らしをしても困らないように、教えてくれたのだと思う。ママとの約束を守るため、わたしは、みそ汁を作る。

『はなちゃん12歳の台所』（家の光協会）

小学校の音楽教師をしていた安武千恵さんは、25歳で乳がんを発症し、その後、はなさんを出産。がんは肺に転移し、平成20年、はなさんが5歳のとき33歳で亡くなりました。

幼い娘に何を残せるかを考えた千恵さんは、当時4歳だったはなさんにみそ汁づくりを教えます。

はなさんの父、信吾さんは、「一番に手を付けるべきことは、『食べること』だと、千恵は思っていたんですよ」と話します。

『「食べることは生きること」という言葉は、千恵の口癖でした』

はなさんが5歳の誕生日を迎えた朝、千恵さんは、はなさんと約束します。「今日から、みそ汁作りは、はなちゃんの仕事だからね」。

今でも毎朝5時に起きてみそ汁を作るはなさん。前日から寝かせてお

やすたけ
安武 はな さん

Profile
平成15年生まれ。現在中学3年生。枕崎鯉節ジュニア大使。趣味はダンス。「踊り出すと2～3時間止まらない」という。将来の夢は管理栄養士だが、「子どもが好きだから保育士も考えています」と話してくれた。



(写真左)「我が家の「食」の原点」と信吾さんが話す1枚。千恵さんと、当時1歳だったはなさんが、高取保育園（福岡市早良区）でみそ作りをしている様子。(写真中央) はなさんは、現在も毎日のみそ汁づくりを欠かさない。「受験生で大変だけど、お母さんとの約束だから」と話します。(写真右) 昆布と自ら削ったかつお節でしっかりだしをとったみそ汁は、だしの味がしっかりと出ていて、少量のみそでも、みその味が引き立ちます。